



看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.14-02 2014.9.8

日本医労連「2014看護要求実現全国交流集会」開催

9月3～4日、熱海後樂園ホテルにて、医労連看護要求実現交流集会が開催されました。全国から225名、全日赤は県医労連からの参加も含めると16名が参加しました。基調報告の後の特別報告では、全日赤の本部・森田委員長の「ILO欧州視察～149号条約についての懇談～」の報告と、医療センター単組の坂本さんから「変形労働制は長時間拘束を合法化させる」と題し、夜勤点検を通じ、変形労働時間制で働く職員と常日勤労働者の月の労働時間が違うことがわかり、施設と交渉の経過や夜勤改善・増員のたたかいが報告されました。



2日目は分散会・分科会にわかれ、議論をふかめました。「大幅増員・夜勤改善」署名はお祭りなどイベントに持参していくことや署名活動に参加する人を増やしていく工夫や、医療現場以外の夜勤労働者（コンビニ・タクシー・すき家など）に夜回り調査をした体験など職場で取り組みやすい話しを聞くことができました。

集会終了後に短時間でしたが、第1回看護問題対策委員会を開き、新しい役員体制と年間スケジュールを決めました。

「2014年度夜勤実態調査」締め切りは9月20日まで

今年も、調査をお願いしている夜勤実態調査ですが、すでに、18単組（北見単組、成田単組、深谷単組、医療センター単組、相模原単組、長野単組、諏訪単組、川西単組、伊勢単組、京一単組、京二単組、大阪単組、松江単組、広島単組、庄原単組、唐津単組、長崎単組、沖縄単組）より調査表が届きました（9月8日現在）。日本医労連でも8月末に昨年より半数しか集まっていないため、9月20日まで締め切りが延長されました。まだの単組は、ぜひとも、ご協力をお願いします。

この夜勤実態調査は、日本医労連の秋の対政府交渉や日赤本社の看護部との交渉、職場の増員闘争に活用する重要な資料となりますので、ご協力をおねがいします。